ISSN 0911-1530
むつ病誌
Med. J. Mutsu
http://www.hospital-

業務報告

# 2018 年度　薬剤科業務報告書

矢田　康司 1)　高野　篤史 1)*

**要旨：**当院は 2016 年 4 月からＤＰＣ制度を導入し、薬剤科では後発医薬品への切り替えを推進することで病院収益に貢献してきた。しかし 2018 年 4 月から後発医薬品使用体制加算の計算方法が変わり、後発医薬品切り替えをさらに進めていく必要に迫られた。これらを含めた 2018 年度の活動実績とその評価について報告する。

**キーワード：**ＤＰＣ、後発医薬品

PERFORMANCE REPORT

# Fiscal Year 2018 Activity Results of the Department of Pharmacy, Mutsu General Hospital

Koji YADA[1)]　Atsushi TAKANO[1)*]

**Abstract:** Mutsu General Hospital implemented the DPC system in April 2016.　Since then, the pharmacy department has contributed to hospital profits by promoting the switch to generics. However, since April 2018, the method of calculating generic drug use in the DPC system addition has changed, and it has become necessary to further promote switching to generic drugs. This report describes the results of these activities and their evaluations in fiscal year 2018.

**Key Word:** DPC, Generic drug

---

１）Department of Pharmacy, Mutsu General Hospital
＊Corresponding Author: A.Takano
（a_takano@hospital-mutsu.or.jp）
1-2-8 Kogawa-machi, Mutsu, Aomori 035-8601,Japan
TEL: 0175-22-2111　FAX: 0175-22-4439
Received for publication,December 30, 2019
Accepted for publication, March 18, 2020

１）むつ総合病院　薬剤科
＊責任著者：高野篤史
（k_fujisawa@hospital-mutsu.or.jp）
〒035-8601 青森県むつ市小川町一丁目２番８号
TEL: 0175-22-2111　FAX: 0175-22-4439
令和１年１２月３０日受付
令和２年　３月１８日受理

はじめに

2018 年４月現在、当科は薬剤師１０名、薬剤助手６名にて構成され、夜間・休日は当直薬剤師１名での 24 時間体制で各種業務へ対応をしている。

今回、目標に手が届きながらも計算方法改定のために仕切り直す形となった後発医薬品切り替え促進など 2018 年度の活動内容をまとめ、業務実績の集計と評価を行ったので報告する。

2018 年度　業務実績

（1）後発医薬品への切り替え促進

2016 年４月より当院で DPC 制度が導入されたのを機に、薬剤科でも後発医薬品への切り替えに着手した。その結果、後発医薬品の数量シェアは 2016 年度末で 67.7%、2017 年度末は 83.9%と目標の 80%に到達した。

後発医薬品使用体制加算は、カットオフ値が 50%以上であることを前提に、後発医薬品の割合に応じて４段階の区分からなっている。これらの計算については、①全医薬品の数量　②後発医薬品のある先発医薬品の数量＋後発医薬品の数量　③後発医薬品の数量　をもとに、カットオフ値は②／①、後発医薬品の割合は③／②で求められる。

ここまでの実績にて「後発医薬品使用体制加算２（機能評価係数Ｉ（0.0012）：数量シェア 80～85%）」の算定が可能となるはずだったが、2018 年４月から後発医薬品使用率の計算方法が外来処方分も含まれることとなった。これを加味した場合、77.6%と再び 80%を下回るため、2018 年度もさらなる後発医薬品への切り替えを余儀なくされた。

当院は原則外来処方を院外へ出しているため、外来処方の大部分は透析患者の処方である。そこで、まずは透析患者に多く処方される薬を重点に切り替えを推進した。その後も随時後発医薬品への切り替えを進め、2018 年度は 55 品目を後発医薬品に切り替えた。薬効分類別の品目数は、精神・神経系薬 15（27%）、循環器・血液系薬 14（26%）、腎・泌尿器系薬 5（9%）、抗菌薬 5（9%）、鎮痛剤 4（7%）、その他（抗悪性腫瘍薬、婦人科系など）12（22%）という結果であった。（図１参照）

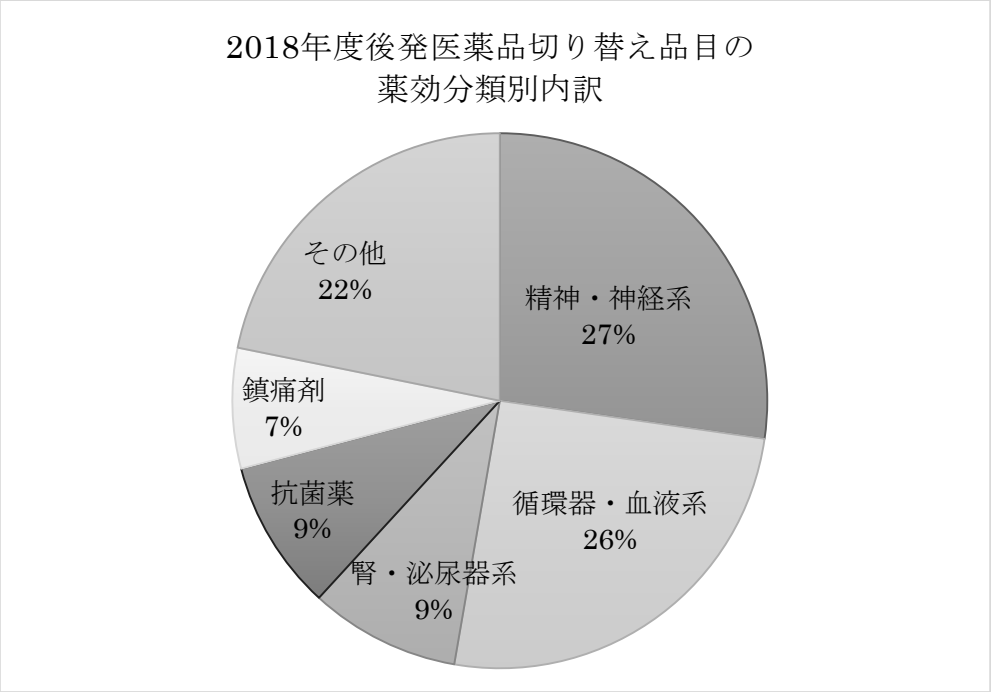


図１　2018 年度後発医薬品切り替え品目の薬効分類別内訳

後発医薬品切り替え推進により、2018 年度の数量シェア（直近３か月平均）およびカットオフ値は表 1、図 2 および図 3 の通りに推移した。

後発医薬品切り替え推進により、徐々に数量シェアが上向いてきたが、１１月にホスレノールの後発品が薬価収載されて②が増大したため一旦落ち込んだ。その後ホスレノールを後発医薬品に切り替えたことで回復し、2019 年１月より後発医薬品使用体制加算３（機能評価係数Ｉ（0.0011）：数量シェア 70～80%）算定にこぎつけた。これにより、年間 210 万円の増収が見込まれる。

表１　２０１８年度　後発医薬品切り替え品目数、数量シェアおよびカットオフ値

| | 後発医薬品への切り替え品目数 | 数量シェア（%）（直近3か月平均） | カットオフ値 |
|---|---|---|---|
| 2018年4月 | 1 | 77.6 | 50.7 |
| 5月 | 17 | 77.6 | 51.5 |
| 6月 | 2 | 77.3 | 51.3 |
| 7月 | 4 | 77.5 | 51.0 |
| 8月 | 1 | 77.9 | 51.5 |
| 9月 | 0 | 78.2 | 51.2 |
| 10月 | 8 | 78.8 | 50.7 |
| 11月 | 0 | 77.4 | 51.4 |
| 12月 | 1 | 75.9 | 52.8 |
| 2019年1月 | 13 | 74.9 | 53.9 |
| 2月 | 2 | 75.7 | 54.2 |
| 3月 | 6 | 76.5 | 55.1 |

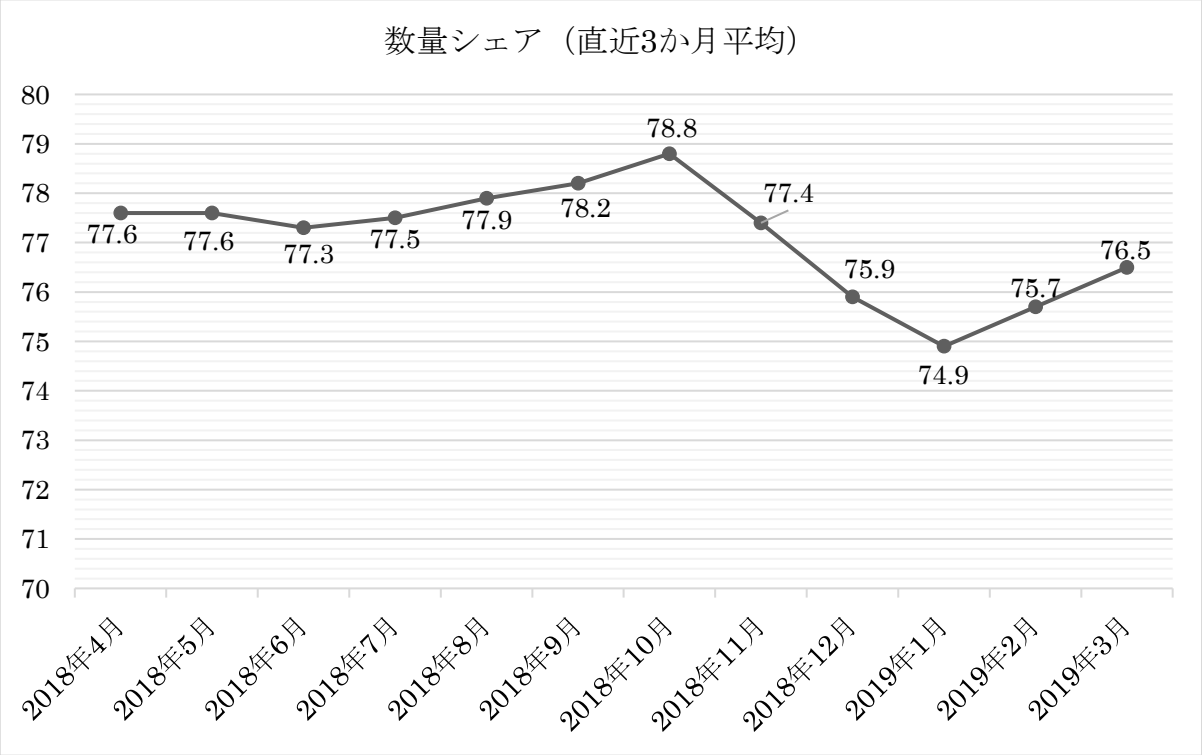


図２　2018 年度後発医薬品数量シェアの推移

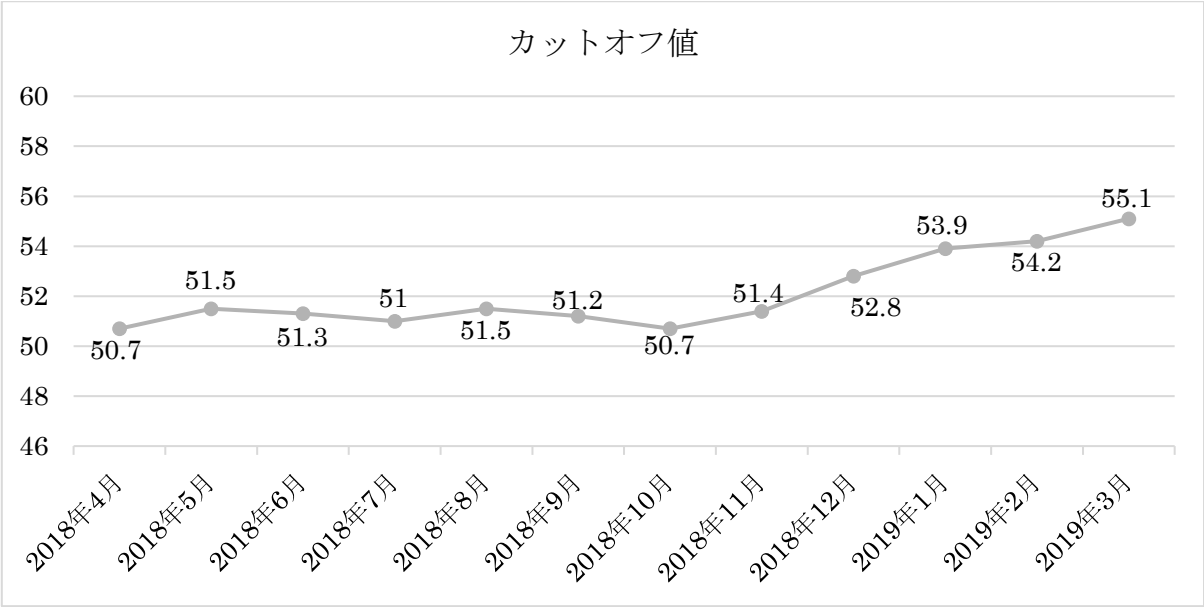


図３　2018 年度　カットオフ値の推移

（2）化学療法の無菌調製

当科での 2018 年度化学療法調製実績は、外来 2059 件、入院 873 件、総数 2932 件であった。

（3）入院患者の持参薬鑑別件数

2018 年度は総数 3103 件（月平均 258.6 件）であった。

（4）処方箋枚数

2018 年度に当科で調剤された処方箋枚数は、外来処方箋 9527 枚（月平均 740 枚）、入院処方箋 36682 枚（月平均 3057 枚）であった。

（5）薬剤管理指導件数

薬剤管理指導の算定対象は入院患者となっている。2018 年度の総件数は 3525 件で、内訳は薬剤管理指導料１（特に安全管理が必要な医薬品[1)]を使用する患者）は 633 件（月平均 53 件）、麻薬の服薬指導件数は 42 件（月平均 3.5 件）、薬剤管理指導料２（その他）は 2892 件（月平均 241 件）であった。

（6）入院注射処方箋枚数

入院注射処方箋枚数は 59846 枚であった。

（7）無菌調製件数

高カロリー輸液（中心静脈からの栄養輸液）を対象とした、ＩＶＨ調製件数は 212 件（月平均 18 件）、シュアヒューザーポンプの調製は９４件（月平均 7.8 件）、化学療法は 2932 件（月平均 244 件）であった。

評価

（1）ジェネリック医薬品への切り替え促進

2019 年３月単月の後発医薬品数量シェアは 76％と、年度当初よりは減少したが、後発医薬品への切り替えを進めたことで大幅な落ち込みは回避でき、後発品使用体制加算３を算定できた。今後も切り替えを進め、ＤＰＣにおける収益アップを図っていきたい。

（2）～（7）

化学療法無菌調製件数は前年度を上回った一方、ＩＶＨ調製件数は前年度の半分を下回る結果であった。処方箋枚数は、外来が前年度を上回り、入院は前年度を下回った。薬剤管理指導件数は昨年を上回る件数であったが、指導料１の割合が著しく減少している。

考察

８月下旬から、薬剤師１名が出産、育児のため長期休業となっている。また、2018 年度末をもって薬剤師１名の退職が決まっており、それを見越して業務の縮小を図ることでそれぞれの実施件数を維持してきた。今後薬剤管理指導業務を従来通り実施することが困難となる見込みのため、対象症例の見直しなどを図っていく必要がある。

1）抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、不整脈用剤、抗てんかん剤、血液凝固阻止剤、ジギタリス製剤、テオフィリン製剤、カリウム製剤（注射剤に限る）、精神神経用剤、糖尿病用剤、膵臓ホルモン剤、抗ＨＩＶ薬。